学生の確保の見通し等を記載した書類

１．学生の確保の見通しの確実性

（１）設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

弘前大学が位置する青森県は全国一の短命県であり，男性は昭和 50 年以降，女性も平成 12 年以降，最下位の状況が続いている。短命県からの脱出は青森県の課題であり，医療を含め地域に有能な人材を輩出することは本学における大きな使命の一つとなっている。実際，本学は第 4 期中期目標・中期計画において，医師をはじめとする医療人の教育・研修体制の充実，安全かつ質の高い医療の提供と地域における医療提供体制の改善を掲げている。

研究面では，寿命革命を掲げる弘前大学 COI 拠点（「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」，平成 25 年～令和 3 年）が本学における研究拠点の役割を果たしてきた。本学 COI 拠点では，短命県返上を合言葉に，青森県各市町村との連携による住民の健康診断や健康教育，健康リーダーの育成，自治体・地域企業等の健康宣言に取り組み，その事業は令和 4 年に採択された共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）事業に引き継がれており，健康科学は本学における研究の柱である。

また，令和 6 年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」において、「グローバル Well-being 共創社会を実現する異分野融合型総合知による革新的卓越研究大学群の構築」が採択され，本学の強みである超多項目健康ビッグデータを基にした研究・社会実装を加速させ，地域への波及効果を生み出していく。

本学の医学部は医学科，保健学科及び心理支援科学科の 3 学科を有し，医学部医学科では，平成 20 年度から地域枠による増員を開始し，地域枠で入学した 1～4 年次学生へのレポート課題，5・6 年次学生との面談，地域定着枠学生支援委員会の設置等により，地域枠学生への指導・助言を行ってきた。令和８年度までに 1,213 名の地域枠学生を確保し，そのうち約 730 名が既に卒業し青森県内の地域医療に貢献している。

（２）地域・社会的動向等の現状把握・分析

青森県は男女とも全国一の短命県であり，がん，脳血管疾患及び糖尿病による死亡率が全国の都道府県の中でも最も高い状況にある。その対策として，青森県は健康寿命を延ばすために，食事，喫煙，飲酒及び塩分摂取量等の制限による生活習慣の改善を中心とした様々な施策を実施している。

また，厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師統計」によると，令和６年における本県の人口 10 万対医師数は 236.9 人であり，全国平均の 280.9 人を大きく下回っている。令和８年度に厚生労働省が公表した都道府県別医師偏在指標では，本県は最下位で医師少数県に区分されるなど，医師不足が極めて深刻な状況となっている。

そのため，地域医療を支え，社会的役割を果たすことができる医師を増やすことが喫緊の課題となっており，本学医学部医学科における教育目的は，こうした要請に応えるものとなっている。

（３）新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等

弘前大学医学部医学科では，

1. 人間の尊厳を希求し，医学の発展の一翼を担う，
2. 豊かな人間性と高度の医学知識に富み，求められる社会的役割を的確に果たすことができ，広い視野と柔軟な思考力をもつ医師，医学研究者を養成する，
3. 科学の進歩と専門性を生かした国際水準の基礎的，応用的な医学研究を推進する，
4. 国際的視点に立った高度で先端的な医療と健康増進を，地域社会と連携しながら実践する，

を理念・目的とし，基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え，生涯にわたり医療，教育，保健・福祉活動を通じて社会に貢献し，医学の発展に寄与することができる人材を養成することを目指し，以下のような学習を実施している。

・ 学生に国際認証に対応した医学的専門知識と技能を体系的に教授することで，医療・医学への洞察を深化させる力を養う。
・ 専門基礎科目により，学生に人類の叡智たる諸学問の構造を俯瞰する機会を提供することで，複眼的思考および多元的価値観に立脚した省察を促す。これにより，高度先端医療や地域医療が抱える複雑な問題の本質を見通す力を養う。
・ 専門科目の演習･実習科目により，学生に高度先端医療や地域医療の実情や問題の複雑さに触れる機会を提供する。これにより，学生が個人およびチームとして問題の解決に挑戦できる力を養う。
・ 専門科目のコア科目により，学生に医学的専門知識と技能を医療・医学の問題解決に応用したり，高度な学識を活かして学術的問題の解決に取り組んだりする機会を提供する。これに加えて各専門領域の深い見識と医療倫理・医学倫理も，実践をとおして培う。
・ 診療参加型実習（臨床実習Ⅰ・Ⅱ）を主体に，学生が医療現場の一員として充実した大学生活を送るとともに，より良い社会の実現に貢献していくことができるように，学生の探究の習慣を確立させる。

また，青森県における医師不足という喫緊の地域課題に対して，本学医学部医学科における上記理念等に基づく教育内容による医師養成は，地域医療を担うより多くの医師の確保に寄与するため，入学定員の増が必要となる。

なお，本学の学生納付金は，入学料 282,000 円，授業料（年額）535,800 円であり，「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成 16 年 3 月 31 日文部科学省令第 16 号)」第 2 条に定める標準額と同額に設定している。

（４）学生の確保の見通し

①　学生確保の見通しの調査結果

医学部医学科では，平成 20 年度から臨時定員増を継続しており，過去 5 年間の一般選抜では，志願倍率が令和４年度の 5.3 倍から令和７年度には 8.9 倍となり，令和８年度は２段階選抜の実施倍率を８倍から６倍に下げた影響等のため 5.6 倍となっ

たが，いずれも５倍以上を維持している。

また，総合型選抜においても，過去５年間の志願状況を見ても大きな変動はなく，志願倍率は２倍程度を維持している。

よって，再度の定員増を行っても十分に志願者及び入学者を確保できる見込みである。（表１参照）

表１：弘前大学医学部医学科の定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

区　分		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
一般選抜(旧:一般入試)	募集人員	70	70	70	70	70
	志願者数	372	482	565	620	391
	受験者数	306	396	473	489	327
	合格者数	71	70	70	70	70
	入学者数	70	70	70	70	70
	志願倍率	5.3	6.9	8.1	8.9	5.6
総合型選抜(旧:AO入試)	募集人員	42	42	42	42	42
	志願者数	102	102	75	89	94
	受験者数	102	102	75	88	93
	合格者数	42	42	42	42	42
	入学者数	42	42	42	42	42
	志願倍率	2.4	2.4	1.8	2.2	2.2
学士(第２年次)編入学	募集人員	20	20	20	20	20
	志願者数	251	209	166	170	149
	受験者数	231	193	157	156	143
	合格者数	20	20	20	20	20
	入学者数	20	20	20	20	20
	志願倍率	12.6	10.5	8.3	8.5	7.5
合計	募集人員	132	132	132	132	132
	志願者数	725	792	806	879	634
	入学者数	132	132	132	132	132
入学定員充足率		100	100	100	100	100
定員超過率		1	1	1	1	1

②　医学分野を有する競合校の状況について

北海道・東北地方における国公立大学の医学部医学科（北海道大学，秋田大学，山形大学，東北大学，福島県立医科大学）の過去 5 年間の入学志願状況等は表 2 のとおりである。本学近県で入学定員を 120 名程度に設定している大学は，直近年度の入学定員を充足できている。

表２：北海道・東北地方における医学部医学科（5 校）の入学志願状況等

区分	大学名	年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
国立	北海道大学医学部医学科	令和4年度	97	329	311	98	97	100.0%
		令和5年度	90	308	288	90	90	100.0%
		令和6年度	90	311	289	90	90	100.0%
		令和7年度	90	324	299	90	90	100.0%
		令和8年度	90	241	233	90	90	100.0%
国立	秋田大学医学部医学科	令和4年度	124	728	354	126	124	100.0%
		令和5年度	124	871	397	127	124	100.0%
		令和6年度	124	852	441	129	124	100.0%
		令和7年度	124	1,148	376	129	124	100.0%
		令和8年度	124	683	383	126	124	100.0%
国立	山形大学医学部医学科	令和4年度	113	769	537	117	113	100.0%
		令和5年度	113	829	605	116	113	100.0%
		令和6年度	113	769	490	117	113	100.0%
		令和7年度	113	710	490	116	113	100.0%
		令和8年度	113	423	378	116	113	100.0%
国立	東北大学医学部医学科	令和4年度	116	429	-	-	118	101.7%
		令和5年度	116	503	-	-	122	105.2%
		令和6年度	116	581	-	-	120	103.4%
		令和7年度	116	538	-	-	122	105.2%
		令和8年度	116	647	-	-	116	100.0%
公立	福島県立医科大学医学部医学科	令和4年度	130	580	451	139	130	100.0%
		令和5年度	130	751	411	136	130	100.0%
		令和6年度	130	697	427	135	130	100.0%
		令和7年度	130	408	329	134	130	100.0%
		令和8年度	130	625	441	137	130	100.0%

［出典］
入学定員：各大学ホームページまたは大学概要に基づき作成
志願者数，受験者数，合格者数，入学者数：各大学ホームページに基づき作成
［補足］
・公表されていない数値は「ー」とした。
・東北大学は，第1次選考受験者数，第1次選考合格者数，第2次選考受験者数，第2次選考合格者数を分けて公表しているため，受験者数及び合格者数は省略。

③　中長期的な18歳人口の全国的，地域的動向等

中央教育審議会大学分科会（第174回）資料5-1「大学入学者数等の将来推計」では，大学進学率の伸長を加味したとしても，2040年代の大学進学者数は40万人台まで減少し，定員充足率は80%を割る年もあると推計している。

地域的な動向としては，北海道・東北地方は，大学進学率の向上の傾向が見られており，2040年の青森県の入学定員充足率推計は82.4%となっている。

我が国では急速な人口減少が進んでおり，特に北東北地方の減少率は著しい状況にある。一方で本県における大学進学状況は，自県進学率が41.1%と北海道，宮城県に次いで高い特徴があり，また，本学の志願者・入学者の動向としては北海道が県内の次に多く一般選抜では県内を超える学部学科もある状況であり，大きな特徴である。このため，18歳人口の減少はあるものの，当面は十分に志願者及び入学者を確保できる見込みである。

２．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた取り組みとして，全学一斉開催の「オープンキャンパス」並びに高校生を対象とした「医学部医学科スクーリング」において入試説明を行った他，医学系予備校等が実施するイベントに資料参加するなど，広報活動を行っている。

また，「青森県内高等学校進路指導担当教諭との懇談会」を実施し，令和７年度入試の説明及び意見交換を行った。

加えて，弘前市教育委員会が主催する「中学生×医師交流プログラム」（医療職に対する理解を深めてもらうことを目的として，中学生と医師や医学生との交流及び実習体験等を行う。）に共催参加している。

全学的な取り組みとしては，東北地域の主要高校への高校訪問や北海道内の活動拠点となる札幌サテライトを設置するなど，継続的に志願者を獲得するための入試広報活動を強化している。

また，青森県では，本学において医学を専攻し，将来本学や青森県内自治体医療機関等で医師として勤務しようとする者に対し，修学に必要な資金を支援することにより，主に県内出身者の修学機会の確保とともに，卒業後，県内の指定医療機関に一定期間勤務したときに修学資金の返還を免除することにより，県内の医師の充足を図ることを目的とした「医師修学資金支援事業」を設置しており，本学は青森県と連携して医師確保の取り組みを進めている。

３．人材の社会的要請や人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学医学部医学科は，「豊かな人間性と高度の医学知識に富み，広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者の養成」を目的としている。これを達成するため，

①医学教育を受けるに十分な素養で，入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力，

②他人を思いやるやさしさと社会性を持ちながら，高度で先端的な医療を地域社会と連携しながら実践してゆく行動力，

③生涯にわたり医師として医療・医学に貢献したいという明確な目的を持ち，何事にも前向きに取り組み，知的・人格的に成長していこうとする意欲，

を教授することとしている。

（２）上記（１）が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師統計」によると，令和６年における本県の人口 10 万対医師数は 236.9 人であり，全国平均の 280.9 人を大きく下回っている。令和８年度に厚生労働省が公表した都道府県別医師偏在指標では，本県は最下位で医師少数県に区分されるなど，医師不足が極めて深刻な状況となっている。

そのため，地域医療を支え，社会的役割を果たすことができる医師を増やすことが喫

緊の課題となっており，本学医学部医学科における教育目的は，こうした要請に応えるものとなっている。